



2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

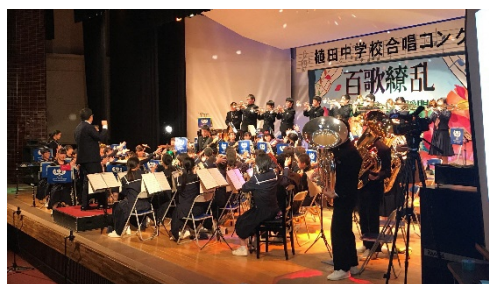
学校名【 いわき市立植田中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	いわき市立植田中学校 1年生 146名 2年生 148名 3年生 167名 合計 461名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (校内合唱コンクール) ③ その他 (部活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 (いわき市出身パラリンピアン・パラアスリートトークイベント2019) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	スポーツに関しての視野を広げることで、競技力向上だけではなくスポーツの魅力に気づかせ、それぞれの立場でスポーツを楽しむ心を育む。
5 取組内容	<p>○いわき市出身パラリンピアン・パラアスリートトークイベント2019参加</p> <p>・ 車いすバスケットボールの選手等によるトークイベントにバスケットボール部員が参加し、競技としての車いすバスケットボールに対する見識を広げると共に、スポーツに取り組む意義や、情熱を学んだ。</p> <p>○スポーツ笑顔の教室</p> <p>・ スポーツこころのプロジェクトによる</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>「スポーツ笑顔の教室」を開催。2年生が、アスリートである「夢先生」から、協力・思いやり・全力などの大切さを学び、「夢を持つことの素晴らしさ」「努力することの大切さ」を伝えていただいた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>「夢を持つことの素晴らしさ」「努力することの大切さ」を伝えていただいた。</p> </div> </div>



○オリンピックに思いを寄せて（吹奏楽部の演奏）

- ・ 校内合唱コンクールにおいて行っている吹奏楽部の演奏を2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催をテーマに実施した。演奏する側、演奏を聞く側の双方でオリンピックに思いを寄せると共に、音楽でもスポーツを盛り上げることができるとを学んだ。



○オリンピック・パラリンピック派遣プロジェクト講演会

- ・ 2年生を対象として、フェンシングのオリンピックメダリストである千田健太さんをお迎えして講演会を実施した。競技と向き合うアスリートの心や、競技を通して学んだこととお話しいただいた。



また、参加者全員で、フェンシングの動

きを取り入れたエクササイズに取り組み、馴染みの少なかったフェンシングという競技を身近に感じることができた。

○東京オリンピック・パラリンピック紹介ミニポスター制作

- ・ 美術部による、ミニポスター制作。オリンピック・パラリンピックによって、建築物・美術デザイン分野においても、話題となった。美術に関わっているからこそその視点で、オリンピック・パラリンピックを捉えることができた。日本で行われる大会ということで、世界に日本的な文化を発信しようとする思いが伝わる作品となった。



○ボッチャ講習会

- ・ 特別支援学級の生徒10名が、県立いわき支援学校くぼた校の奥山和明先生を講師に、実技を含めたボッチャの講習を開催した。実際の競技に触れることでパラリンピックへの興味・関心が高まっただけでなく、近隣校の特別支援学級にも参加を呼びかけたことで、ボッチャを通しての交流も図ることができた。

<p>6 主な成果</p>	<p>単にオリンピック・パラリンピックの競技やメダルを楽しみにするだけでなく、大会の歴史や、文化としてのスポーツの視点に気づくことができた。芸術分野からもスポーツを盛り上げ、支えられることが実感でき、吹奏楽部や美術部といった運動部以外の生徒にとっても、スポーツを身近に感じ、スポーツを楽しむ心が育まれたと感じる。</p> 
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>普段、スポーツが身近ではない生徒や、身近ではない競技に焦点を当てて実践を行った。 現在、自分たちが取り組んでいるものから視野を広げさせることで、それぞれの視点や観点からスポーツを捉えさせ、オリンピック・パラリンピックを単なる競技力の優劣をつける場ではなく、スポーツに取り組む意義や、文化的側面にも気づかせる場となるように事業を展開した。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>学校としての実践に対して、適切な講師を招き、適切な内容での講演をいただくためには、事前の連絡調整に十分な時間をかけなくてはならない。フェンシングでは、用具のレンタルの費用を捻出できず、実物の用具を見せることができなかったが、講師の先生の配慮により、テニスボールを使用したエクササイズとして、フェンシングの動きを体験することができた。</p> 
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピックイヤーとなるので、より身近なものとしてオリンピック・パラリンピックを捉える機会が増えると考えられる。日本に海外からのお客様を多く迎えることもあり、オリンピック・パラリンピックを通して、世界の中の日本や、世界の中のふくしまを意識し考えていけるような展開につなげて継続していきたい。</p>